

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 103-8210  
 住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号  
 花王株式会社  
 氏 名 代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆  
 (代理人) 川崎工場 工場長 和田 康 印  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	花王株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町1番2号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	衣料用・台所用合成洗剤、住居用洗剤、柔軟仕上げ剤、シャンプー、リンス 及びボディーシャンプー等		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		24,308 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	地区サービスセンター 環境安全
		所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町1番2号
		電話番号	044-288-8614
		FAX番号	044-266-4467
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成 25年度 ~ 平成 27 年度 (報告年度 25年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当社の環境への取組については、ホームページに公表しています。 <a href="http://www.kao.com/jp/corp/eco/">Http://www.kao.com/jp/corp/eco/</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策結果報告

## 1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

## (1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

## ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	48,007 47,981 t-CO <sub>2</sub>	47,155 47,130 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	45,520 t-CO <sub>2</sub>
削減率		1.8 1.8 %	%	%	5.2 %

## イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産重量		単位	t-CO <sub>2</sub> /t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.1131	0.1103			0.1097
削減率		2.5 %	%	%	3.0 %

## ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	当工場においては、衣料用洗剤の粉末洗剤より超濃縮液体洗剤（アタックNeo等）への生産移行による燃料エネルギー使用量の低下や廃液焼却炉の集中運転化と廃液処理液の濃淡分別による燃料削減。また、蒸気ドレン回収化改善、外灯照明のLED化などの効果により、排出量で1.8%及び原単位で2.5%の削減を図ることができた。
第2年度	
第3年度	

## (2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<p>○ CO<sub>2</sub>削減に向け、さまざまな活動の展開</p> <p>「環境宣言」において、花王グループが2020年までにめざしているCO<sub>2</sub>の削減量は、国内の消費者向け製品で2005年比マイナス35%（売上高原単位ベース）です。</p> <p>製品使用時の環境負荷低減や容器のコンパクト化・高効率ターボ冷凍機の導入及び都市ガスへの燃料転換などにより、2013年度は2005年度を基準として17%（売上高原単位）削減しています。</p> <p>2013年度は“未来に向けた花王のモノづくり”として、2013年12月東京ビックサイトで開催された環境展示会『エコプロダクツ2013』に出展しました。</p> <p>花王のブースには、約1万人のお客さまにご来場いただきました。花王の環境に対する考え方を紹介するとともに、代表的なエコ製品を通して日常的に無理なく続けていただく「くらしの中でいっしょにできるeco」や「原材料調達」の考え方、「容器包装」での工夫、産業界向け製品（ケミカル）での「エコテクノロジー」など花王の取り組みをご紹介しました。</p>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギー使用量等の把握</li> <li>○燃料の燃焼の合理化</li> <li>○照明設備の運用管理</li> <li>○ヒートポンプの導入</li> <li>○コンプレッサーの運転管理</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギー使用量等の把握 各部門の毎月のエネルギー使用量を把握・分析を行ない、原油換算量及びCO<sub>2</sub>排出量毎の原単位をまとめ報告を定期的に行った。</li> <li>○ヒートポンプの導入 空調機の老朽化更新として、7台をヒートポンプ式(空冷パッケージ型)空調機へ取替えを行いエネルギー削減を行った。 尚、今年も継続し取替えを計画しています。</li> <li>○蒸気ドレン回収水のボイラー給水へ再利用化 工場内から回収した蒸気ドレンを小型貫流ボイラー給水へ直接利用することでボイラーの燃料削減を図った。</li> <li>○冷却水ポンプの能力最適化 既存の冷却水供給能力を見直し、冷却水ポンプを適正機器へ更新を行い、電力削減を図った。</li> <li>○工場水銀灯の保守性を考慮した照明器具の選定 高所設置の水銀灯をLED照明に更新し、メンテナンスの効率化及び消費電力の削減を図った。(外灯水銀灯22灯、室内水銀灯62灯のLEDへ更新)</li> </ul>
	第2年度	
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	な し
第1年度	な し
第2年度	
第3年度	

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お客さまと“いっしょにeco”を具体化した「アタックNeo」</li> <li>○「花王・みんなの森づくり活動」を展開</li> <li>○廃棄物の減量化・分別化の推進</li> </ul>
第1年度	<p>○お客さまと“いっしょにeco”を具体化した「アタックNeo」</p> <p>「お客さまと“いっしょにeco”」を具体化した初めての製品が、衣料用超コンパクト液体洗剤「アタックNeo」です。環境配慮の視点における最大の特長は、「すすぎ1回で済むこと」。独自の技術が生んだ新洗浄成分アクアW（ダブル）ライザーは、高い洗浄力を発揮しながら、すすぎの際の泡切れがよく、洗浄成分が繊維に残りにくいため、通常2回のすすぎを1回にすることが可能になりました。大幅な節水と共に、洗濯にかかる電気の節約や時間の短縮も実現が可能となったエコ製品です。</p> <p>川崎工場に見学にいらした一般見学者やサイエンスサマー見学者等に“いっしょにeco”として、暮らしの中でできるエコ（節水、節電、ごみ削減）や花王の環境に配慮したモノづくりについて説明を行っています。今年度は、14,084名 347団体に説明を行いました。引続き、2014年度も継続して行きます。</p> <p>○川崎市地球温暖化推進条例に定めるエコ搬送制度</p> <p>原料受入や製品出荷を担当する運送事業者106社に対して「エコドライブ、エコ搬送」を要請しています。</p> <p>○廃棄物の減量化・分別化の推進</p>
第2年度	
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

48,693	t-CO <sub>2</sub>
45,693	

(2) 事業所等単位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
川 崎 工 場	川崎市川崎区浮島町 1 番 2 号	1642	石けん・合成洗剤製造業	48,693 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--